

2022年5月13日

サイジニア株式会社

2022年6月期第3四半期 決算説明

エグゼクティブサマリー

過去最高

売上高：前年同期比80%増、過去最高の1,790百万円を達成

営業利益：188百万円改善して126百万円を達成

強固な
事業構造

粗利の大きいストック型収益の構成比率が引き続き拡大、ますます強固な事業ポートフォリオが出来上がりつつある

のれん確定
と減損処理

ZETA取得に伴う企業会計手続きにより800百万円の資産増、これに対する276百万円の繰延税金負債発生。

会計処理により加算された276百万円のものれんを減損。

目次

1

2022年6月期第3四半期業績について

2

事業ポートフォリオの変化について

3

顧客関連資産の認定に伴う繰延税金負債の計上と減損処理について

2022年6月期第3四半期 損益計算書※

単位:千円

科目	2021年6月期 第3四半期	2022年6月期 第3四半期	増減 (前年同期比)
売上高	996,550	1,790,630	794,080
営業利益	-62,181	126,788	188,970
経常利益	-60,778	121,915	182,693
当期純利益	-69,711	-1,317,760	-1,248,048

80%
増加

前年同期比で売上高は80%増加、営業利益は188百万円改善。過去最高を達成。

※ZETAの業績は第2四半期から連結

2022年6月期第3四半期 貸借対照表

単位:千円

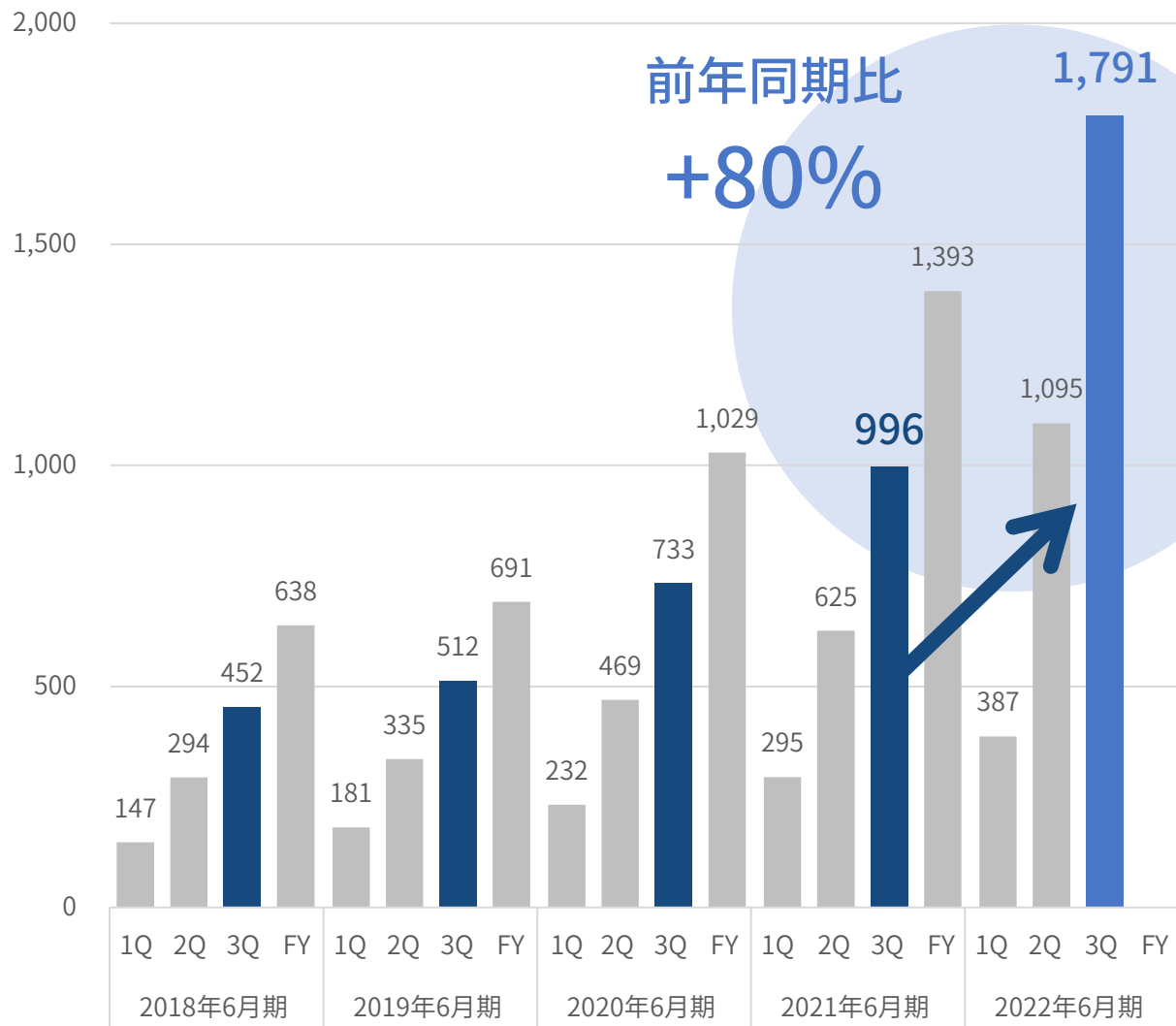
科目	2021年6月期末	2022年6月期 第3四半期末	増減
流動資産	487,155	2,092,234	1,605,079
現金及び預金	245,617	1,631,709	1,386,091
固定資産	28,283	850,999	822,715
繰延資産	—	8,942	8,942
資産合計	515,438	2,952,176	2,436,737
流動負債	206,489	619,070	412,580
固定負債	28,759	996,290	967,530
負債合計	235,249	1,615,360	1,380,111
純資産合計	280,189	1,336,815	1,056,625
負債純資産合計	515,438	2,952,176	2,436,737

資産
大幅増

サイジニアグループ全体の総資産規模が大幅に増加

売上高推移

単位:百万円



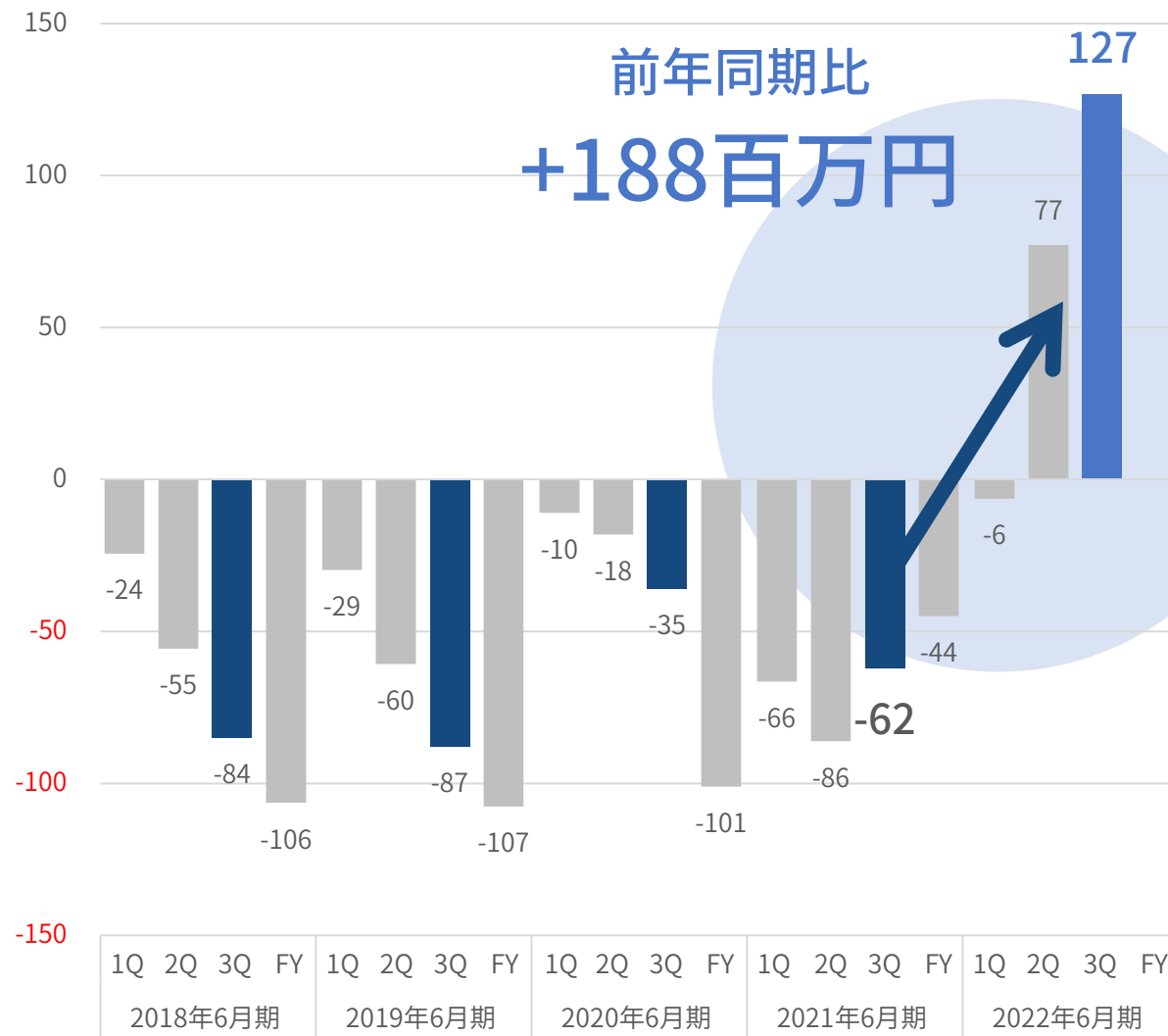
主な増加要因

- 前四半期に引き続き、コロナ関連商材の広告需要や、首都圏不動産需要の高まりを受け、広告配信案件が拡大
- ZETAの子会社化による収益の連結

第3四半期までの
累計売上高は、
5期連続で増加

営業利益推移

単位:百万円



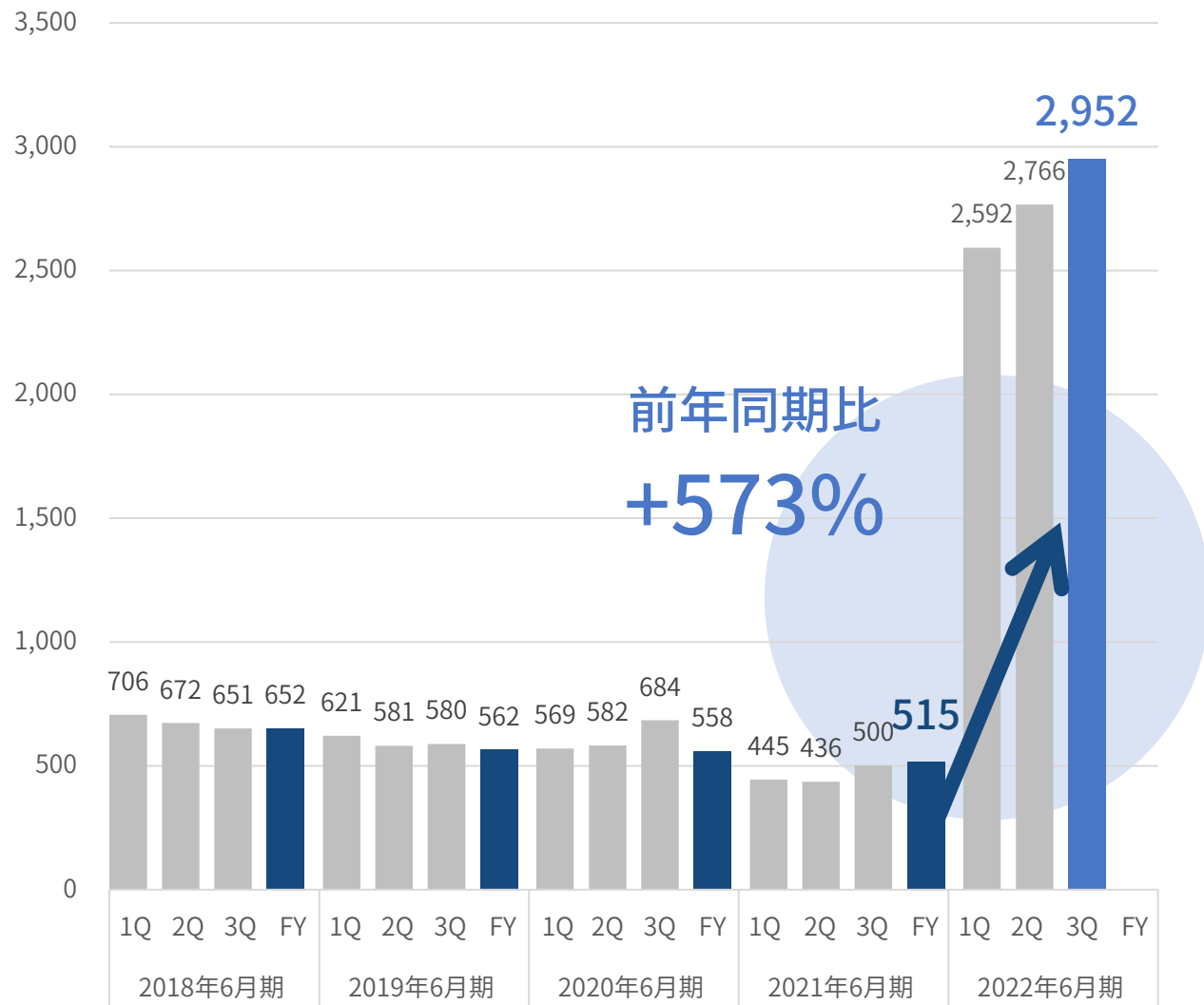
サマリー

- ZETAの損益が連結されたことにより、営業利益は大幅改善
- サイジニア、デクワスとも前第3四半期より黒字継続

足元の事業は
好調に進捗し、
過去最高の利益
を達成

総資産推移

単位:百万円



サマリー

- 現預金は、期初の245百万円から1,631百万円へと拡大
- ZETAの連結に伴い、総資産が大幅増

財務体質を
急速に改善し
強固な経営基盤

目次

1

2022年6月期第3四半期業績について

2

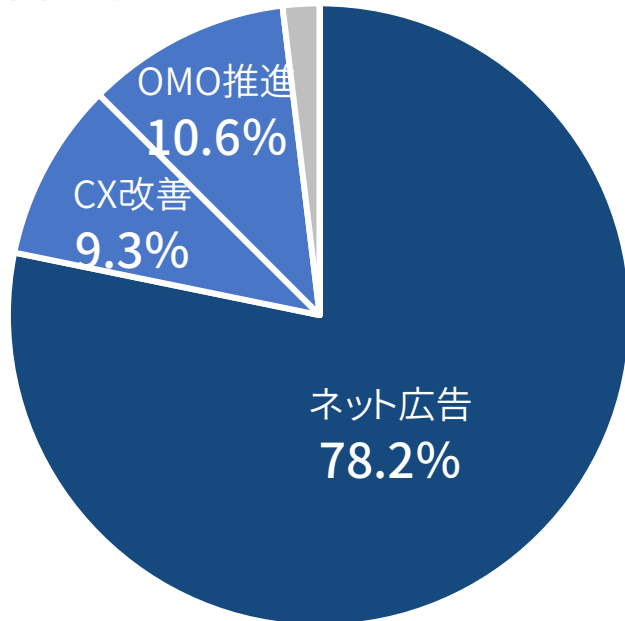
事業ポートフォリオの変化について

3

顧客関連資産の認定に伴う繰延税金負債の計上と減損処理について

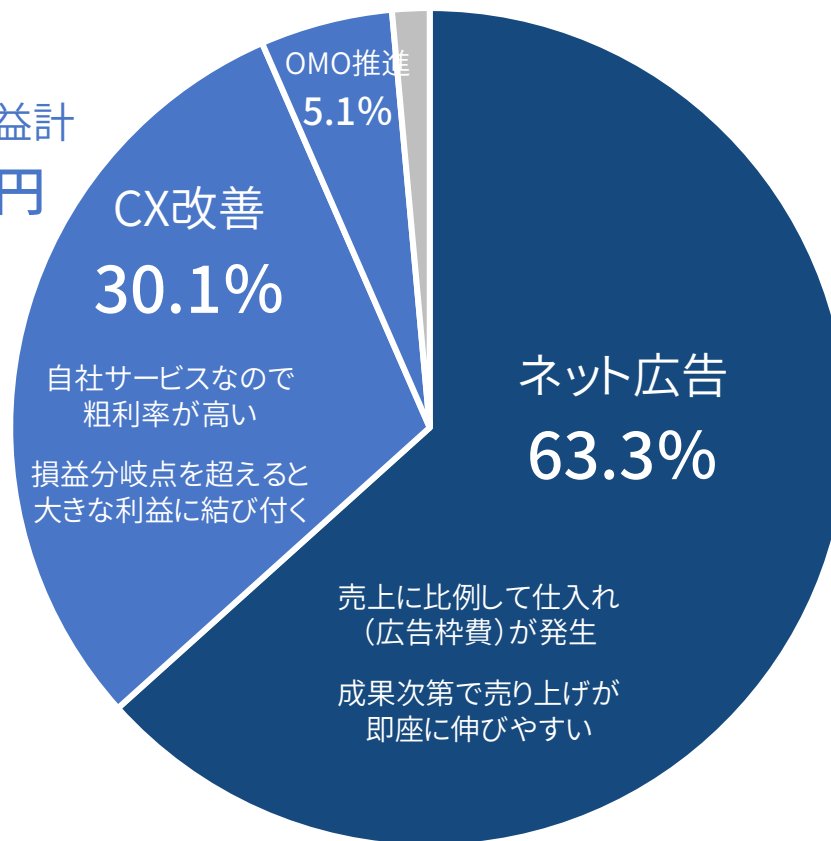
サービス別売上高構成比の変化

ストック型収益計
198百万円



2021年6月期第3四半期

ストック型収益計
630百万円



2022年6月期第3四半期

収益構造

ストック型
収益

フロー型
収益

粗利が大きいストック型の売上高比率が高まり収益基盤がますます強化されている

目次

1

2022年6月期第3四半期業績について

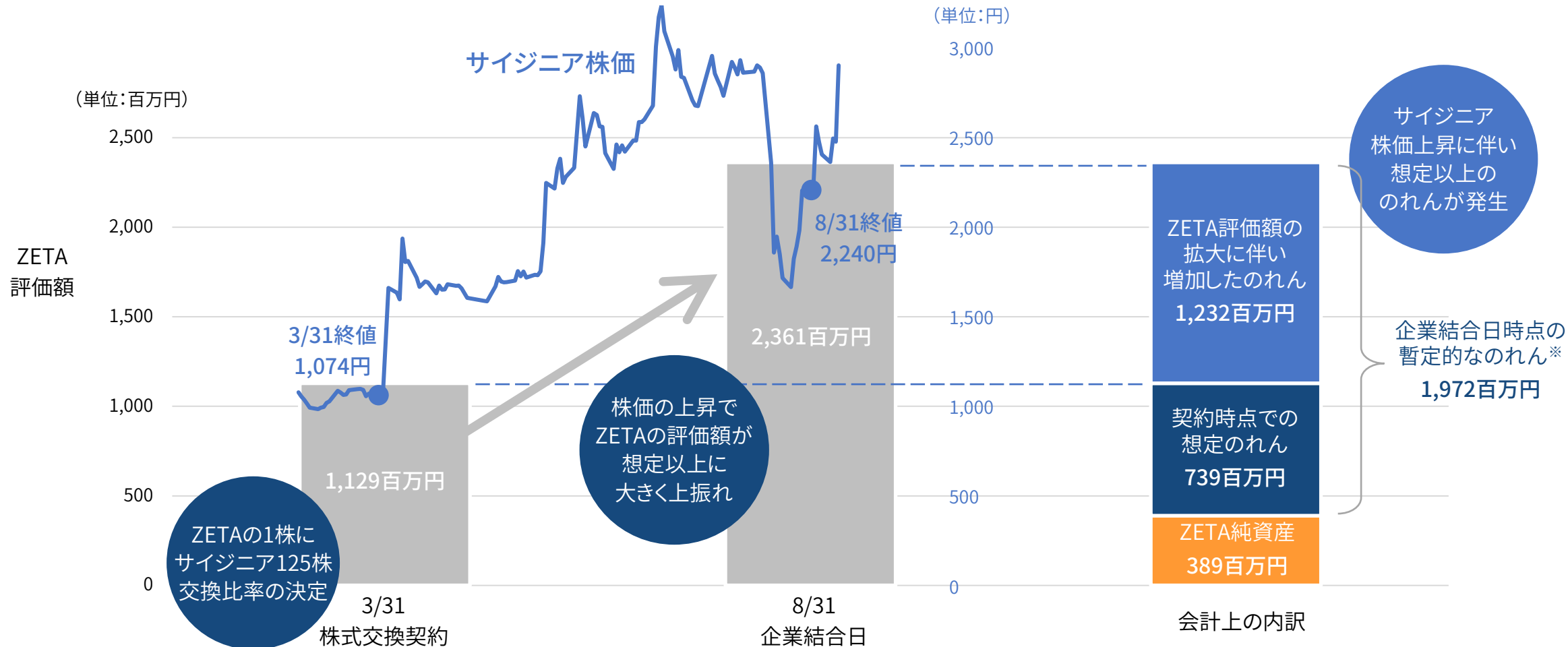
2

事業ポートフォリオの変化について

3

顧客関連資産の認定に伴う繰延税金負債の計上と減損処理について

ZETA取得に伴う企業結合日時点の暫定的なのれんについて



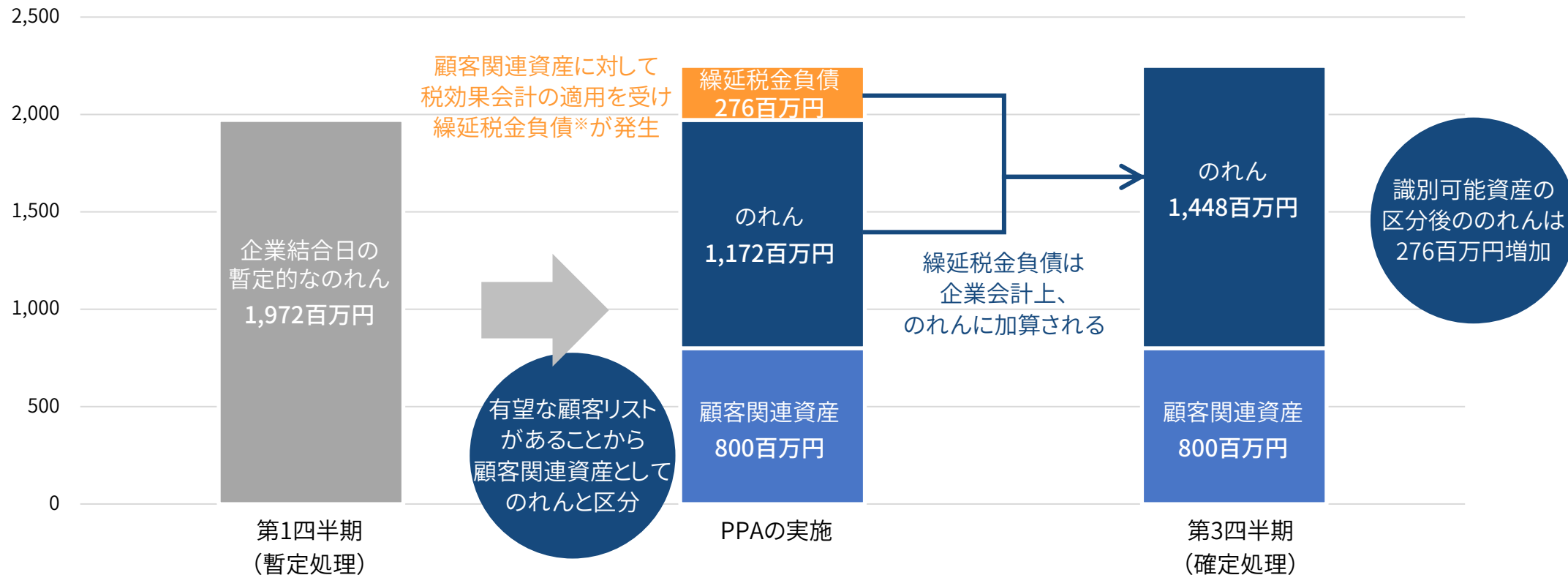
企業結合日時点で暫定的に1,972百万円なのれんを計上

※のれんから独自に価値を算出可能な資産(識別可能資産)が確定するまでの暫定的な処理に基づく。企業会計上は、後に識別可能資産の公正価値を算出して、のれんと区別する必要がある(次ページに詳細を記載)。

顧客関連資産の認定と繰延税金負債発生によるのれんの増加

企業会計上は、Purchase Price Allocation (PPA)というプロセスを通じて、被取得企業の識別可能な資産等の企業結合日時点の公正価値を算出し、のれんと区分する必要がある

(単位:百万円)



顧客関連資産が回収性のある資産のため繰延税金負債を計上し、のれんが増加

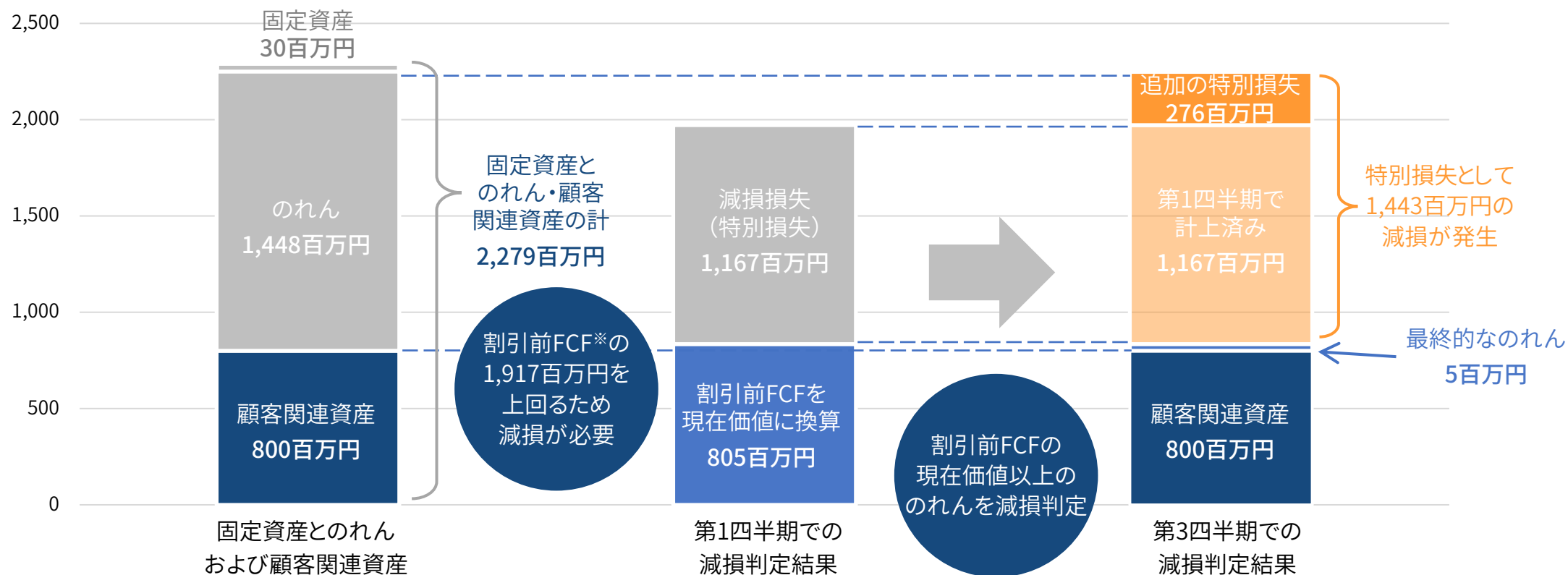
※会計と税務では資産の認識時点が異なり差額が発生する場合がある。税効果会計の適用を受けるとその差異に相当する課税分の積立が必要。繰延税金負債とは将来課税される税金相当額のこと。

第3四半期におけるZETA取得に伴う特別損失の発生について

第1四半期連結決算において、うち805百万円を被取得会社の割引前フリーキャッシュフローの現在価値とし、1,167百万円を減損、特別損失として計上済み。

発生した繰延税金負債は減損すべきのれんの増加と認識され、追加で特別損失に計上。

(単位:百万円)



のれんの確定処理により、第3四半期決算にて276百万円の特別損失を追加計上

※割引前FCF:事業活動で将来得られるキャッシュフローの総額で、現在価値を考慮しない額

のれん及び顧客関連資産の償却について

単位：百万円

	2022年 6月期	2023年 6月期	2024年 6月期	2025年 6月期	2026年 6月期	2027年 6月期	2028年 6月期	2029年 6月期	2030年 6月期	2031年 6月期	2032年 6月期
一時減損による 特別損失	1,443	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
定期償却 (のれん)	0.4	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.1
定期償却 (顧客関連資産)	80	84.5	77	77	77	77	77	77	77	77	19

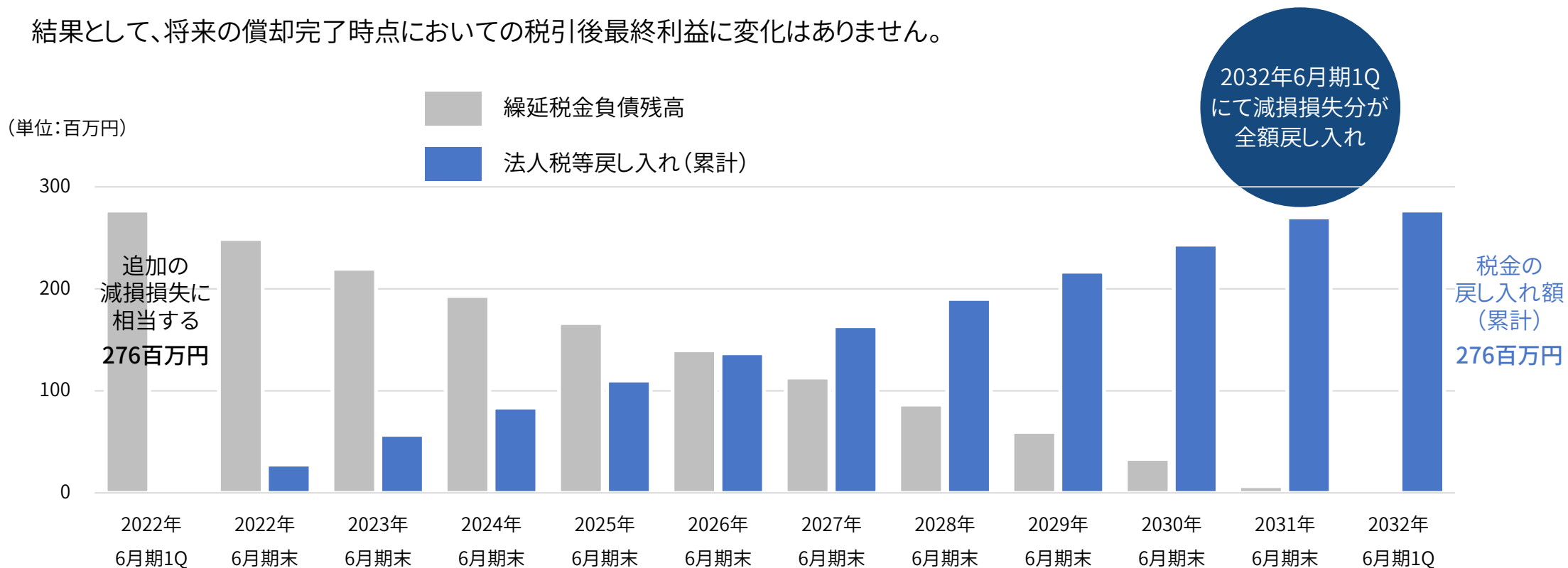
特別損失計上後ののれん及び顧客関連資産を2021年10月から今後10年で定期償却※

※将来、のれんの評価額が変わる可能性があります

顧客関連資産の償却に伴う法人税等の戻し入れについて

繰延税金負債として計上した276百万円については、顧客関連資産の償却に対応して取り崩しを行い法人税等にて調整されていき、顧客関連資産の償却完了後は追加計上した特別損失額が全額回収されることになります。

結果として、将来の償却完了時点における税引後最終利益に変化はありません。



償却完了時に減損損失分全額の戻し入れが完了し、税引後最終利益は減損前と同じに

本件処理に関するまとめ

企業会計上 必要な手続き

企業結合日に計上したのれんについて、被取得会社の識別可能な資産をPPAによって認定します。ZETAの有望な顧客について800百万円が顧客関連資産としてのれんから区別されました。これは収益をもたらす資産であるため、繰延税金負債が発生し、のれんとして加算されます。

減損判定による 特別損失

加算されたのれんについては第1四半期と同様の減損判定基準に基づき、減損を行います。当第3四半期決算において276百万円の特別損失を計上しますが、会計上の処理手続きであり、当社グループの事業の毀損が生じたものでもキャッシュアウトを伴うものでもありません。

事業への 影響と 今後の見通し

繰延税金負債として計上した276百万円については、顧客関連資産の償却に対応して取り崩しを行い法人税等にて調整されていきます。

顧客関連資産の償却完了後は追加計上した特別損失額が全額回収されることになるため、結果として、将来の償却完了時点においての税引後最終利益に変化はありません。

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。

これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、必ずしも既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証していません。

